

# 平成31年度 学校自己評価表

( 計画段階 ・ 実施段階 )

学校番号

62

福岡県立三井高等学校長 印

学校運営計画		評 価			
<b>学校運営方針</b>	○ 人権尊重の精神を基盤とし、道徳性、自主性、創造性に富む豊かな人間性を育てるとともに、社会の変化に主体的に対応できる能力を培い、平和的・民主的な社会の一員として貢献できる人間を育成する。このため、教職員自らが率先垂範に努めるとともに、人間性を高め、校訓「自律 礼節 剛健」のもと、「己にうち克ち、師友ともに尊敬し合い、身も心も健やかな若人であれ」を具現化する教育を実践し、「地域を支える有為な人材の育成」を通して、保護者・地域から信頼され支援される学校づくりに努める。				
<b>昨年度の成果と課題</b>	<b>本年度重点目標</b>	<b>具体的目標</b>			
○教育活動の充実により、生徒の意欲向上や規律ある生活態度の育成につながった。(中途退学者・問題行動発生件数の減少) ○人権・同和教育推進委員会を定期的に開催し、特別な支援が必要な生徒に関する情報共有を図った。 ○在校生による中学校(母校)訪問を行うことができた。 ●各部、学年等が連携を図り、全教職員の共通理解による授業改善と学力向上、キャリア教育の充実を図る。 ●「生徒指導は進路指導」の共通認識のもと、基本的な生活習慣やマナーを確立させ、有為な社会人となるための準備と自覚を育てる。 ●SC、SSW、訪問相談員及び関係機関との積極的な連携による修学支援の更なる充実を図る。 ●学校ホームページ、パンフレット等の刷新を図るとともに、組織的・計画的な広報活動を展開する。	(1) 基礎・基本の定着と授業規律の徹底を図り、学力を向上させるとともに、希望進路実現のためキャリア教育の充実と自己の将来を真剣に考える態度を養う。 (2) 積極的な生徒指導を推進し、生徒の自信や自尊感情を高めるとともに、基本的な生活習慣や規範意識を身に付け、目標に向かって生き生きと活動できる学校づくりに努める。 (3) 人権・同和教育及び特別支援教育を推進し、生徒が安心して学ぶことのできる学校づくりを進める。 (4) P T A ・同窓会・地域関係機関等との連携強化を進め、地域に開かれた信頼される学校づくりの推進を図る。 (5) 働き方改革に取り組み、教育の質の向上を図る。	○規律ある学習環境づくりを行うとともに、実態に即した細やかな指導を通して、学力向上と自学自習ができる力を養う。 ○わかる授業を目指して、ICTやアクティブ・ラーニング等を取り入れた授業研究に取り組み、指導内容及び指導方法の工夫・改善に努める。 ○基礎力診断テスト等の結果分析を踏まえ進路意識の高揚を図る取組を充実させ、希望進路の実現を図る。 ○時間厳守や身だしなみ等の基本的な生活習慣やマナーを確立させ、社会人として求められる資質や規範意識を育成する。 ○生徒会等自主的活動の活性化を図り、道徳心の育成など心の教育を充実する。 ○行事や体験的活動等を通じて鍛えて褒めることにより、達成感を味わわせ、自尊感情やチャレンジ精神の育成を図る。 ○保健安全指導を充実するとともに環境美化意識の高揚を図る。 ○ケース会議と学年が連携し、生徒の修学状況の把握・改善に努める。 ○家庭訪問を積極的に行い、保護者との連携を深め、生活実態や背景を把握するなど、確かな生徒理解に基づいた指導や支援に努める。 ○家庭や地域、関係機関等との協力・連携を深め、生徒を育て、見守るネットワークづくりに努める。 ○「チーム三井」として「面倒見のいい学校」を目指し、夢の実現に向け充実した学校生活を送れる学校満足度の高い学校づくりを進める。 ○一人一人が「段どり力」を高め、組織の一員として効率的に業務を遂行する意識やタイムマネジメントの意識の向上に努める。			
<b>評価項目</b>	<b>具体的目標</b>	<b>具体的方策</b>	<b>評 価</b>	<b>次年度の主な課題</b>	
教科指導	生徒の習熟度に応じた基礎・基本の定着と確かな学力の育成	生徒の実態を把握するために「高校生の基礎学力定着に向けた文部科学省認定ツール」を活用し、進路・学年と連携し、個々の学力を伸長する。 生徒の習熟度に合わせて少人数クラスの授業を効果的に編成する。 定期考査前の放課後学習会や進路研究同好会の活動を通して自学自習できる環境や雰囲気を作る。	B B A	A	・ 学びの基礎診断に対応した基礎力診断テストを実施し、この活用方法を進路と連携して計画・実施することで生徒の学力の定着を目指す。 ・ 「授業開始心得」を徹底し、授業改善を更に進める。 ・ 新学習指導要領を受け、教育課程・教育規定の見直しを行う。 ・ 学習評価(観点別評価)導入後の改善点を見極め、より良いものとする。 ・ 遅刻・欠席の多い生徒の指導を同推委員会と連携し、基本的な生活習慣の改善に取り組む。
	中途退学者の防止	教科担任連絡会等を行い、生徒一人一人の支援や就学状況確認する。 遅刻・欠席の多い生徒について、遅刻届や欠課時数報告用紙を利用し、個別の対応を充実させる。	A A		
	わかる授業を目指し、指導内容・方法の工夫・改善	生徒の実態に応じた観点別評価の基準・規準を明確にする。 I C T の活用、アクティブラーニングを取り入れた授業を各教科で行う。	A A		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立とマナー指導等の徹底	「三井高生3つの約束」を自分たちが守るべき約束として捉えさせ、基本的な生活習慣のさらなる確立を図る。 門立ち指導、服装指導、交通安全指導等の徹底をとおして、生徒の規範意識の育成を目指す。 いじめを許さない態度・行動の育成を推進する。	B A A	A	昨年度に引き継ぎ「三井高生3つの約束」を全ての生徒が自ら守るべき約束として捉えるよう指導してきたが、まだ不十分であった。正しい身だしなみや振舞い方を全員に身に付けさせることが次年度についても課題である。また、災害等で被害を受ける可能性が高まる中、市や関係機関と連携をし、生徒の安全指導や甚大な災害等への対応策を検討することについても、次年度重要な課題である。生徒会活動については、生徒会役員をはじめ、生徒の自主性の高まりが見られ、学校行事の多くが充実した内容となった。来年度も生徒会役員を中心に、生徒会活動を充実させ、多くの生徒に学校での充実感を持たせたい。
	地域連携と防災・危機管理	市や関係機関と連携をし、生徒の安全指導の推進や甚大な災害等への対応策を検討する。 地域のイベントや行事等に、ボランティアとして積極的に参加をする。	B A		
	生徒会活動の活性化及び部活動加入率75%の達成	文武両道を目指し、多くの生徒に明確な目標を持たせ、社会に貢献できる人材の育成を目指す。 生徒会活動を充実させ、生徒の自主性を育成し、多くの生徒に学校での充実感を持たせる。	A A		
進路指導	3年間を見通した系統的なキャリア教育・進路指導の充実	上級学校及び資格や職種を知り、早期に自己の適正に合った進路目標を立てさせる。(第1学年) 自分に合った進路を決定させるため、希望進路に対応するための学力の向上を図り、資格を取得させる。(第2学年) 全員の希望進路を実現させるとともに、社会人としての常識やコミュニケーション能力を身に付けさせる。(第3学年)	A A A	A	・ 各学年とも、年度当初の計画を基本として、状況の変化に対応しながら、進路やキャリア教育に関する取り組みが実施できた。次年度は更に、内容の充実を図るため、系統だった指導を念頭に計画を組んでいきたい。 ・ 本年度は、時間割に進路部会の設定ができなかったため、連絡調整に苦勞する場面があり、進路部内職員の業務内容に偏りが生じた。次年度は学年代表だけでも、時間割に進路部会を設定したい。
	一人一人に応じたきめ細やかな進路指導の充実	進路指導部内及び各学年・各分掌と連携し、組織的に取組を行う。 公正な採用選考及び入試の実現に向けた取組について、関係機関・団体と連携した取組を行う。	B A		
研修・図書・情報・広報	校内・校外研修を充実し、教職員の資質能力向上を目指す	授業アンケートや公開授業等を推進し、教員の資質向上を図る。 人権・同和教育研修の推進・充実を図る。	A A	A	授業アンケートは実施3年目で、多くの先生が回答して下さるようになった。しかし、特定の教科で実施されていない。そのため、教科主任と協力して実施し、授業改善に役立てられるように工夫をしたい。朝読は、1学期に校内放送を用いて推進を図ったが、2学期は実施できなかった。来年度も引き続き読書の推進を図る必要がある。特別教室の予約表を見直し、特別教室や機器の使用がスムーズにできるよう工夫した。ホームページの更新ペースは以前より早くなったが、内容改善のためには機材の充実とスタッフの確保、先生方のご協力が不可欠である。PTA新聞は保護者の協力のもと順調に発行することができた。
	図書教育の推進	朝読書の充実、図書委員会の活性化を通して、読書の推進を図る。 教科・総合的な学習・総合的な探求の時間での図書館利用を推進する。	A A		
	情報機器等を有効活用した校務の効率化の推進	校内情報ネットワークの安全な運用を図る。 電子版ICT機器・特別教室利用簿を作成し、電子黒板等の計画的な利用を促進する。	B B		
	さらなる広報活動の充実・強化	学校行事や公式戦等の写真記録を集約し、ホームページの定期的な更新を行い、魅力ある情報発信ができるように工夫する。 PTA広報委員会に協力して、充実したPTA新聞が発行できるよう努める。	A A		
保健環境	心身の健康管理についての取組の充実	健康調査を実施し、生徒の心身の健康状態について全職員で情報を共有し、生徒の学校生活に有効活用する。 性と心の健康相談や事故・病気の予防の啓発活動を行い、生徒の心身の健康に対する意識の向上を図る。 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー訪問相談員と十分な連携をとり、教育相談活動を充実させる。	A B A	A	・ 学校生活になじめない生徒や友人とのトラブルに悩む生徒の数が前年度以上に多かったと思われる。担任をはじめスクールカウンセラー等と十分連携し、対応することができた。また、本校においては年末にインフルエンザが大流行し、予防の啓発活動が不十分であったと反省している。 ・ 今年度の目標である「日々の清掃活動を充実させる」は先生方、美化委員会の協力により、十分成果があったと考える。来年度はクラス数、教員数がさらに削減されるのでより効果的な活動になるよう工夫が必要である。
	校内外の美化活動の充実	美化委員を中心に日々の清掃活動を充実させ、ゴミの分別の徹底を目指す。 月末大掃除や三井高クリーンアップ週間を充実させ、生徒の美化意識を高める。 各学年や部活動生による地域清掃活動を充実させる。	A A B		
	PTA活動の充実	安心メール等を通じて、緊急情報や防災・防犯情報を速やかに発信し、生徒・保護者の安全・安心を守るよう努める。 PTA活動等を通し保護者と日常的な連携を図り、協力して教育活動を進められるよう努める。	A A		
企画庶務	保護者・地域と連携した学校行事の活性化	地域や関係機関、保護者と連携し、三井高発表会の活性化を図る。 「野田宇太郎祭」など地域の行事に積極的に参加し、交流活動を活発にする。	A A	A	安心メールを通じて、緊急情報や防災情報、行事の連絡などを行うことができた。また、PTA活動を通して保護者と連携してさまざまな教育活動を行うことができた。地域においても、野田宇太郎祭などに参加し、活発に交流できた。また、職員及び生徒による中学校訪問を行ったが、夏は大雨のため中止にした。訪問結果の共有がきちんとできていないのが課題である。
	中学校訪問の充実	他分掌・学年と連携して、職員および生徒による中学校訪問を充実させる。	B		
人権・同和教育	人権・同和教育の視点の確立と人権感覚の向上	人権・同和教育推進委員会の定期的な実施と情報交換・共有、指導・支援方法等の確認を行う。 中・高連絡会の実施と各地区における連絡会や地域で開催される諸行事へ積極的に参加する。 教職員の部落差別認識を深めるための校内・校外研修への積極的な参加を通して人権感覚の向上を図る。	A A B	A	一人ひとりの生徒が安心して学校生活を送ることが出来るように、学校全体で人権感覚の向上を目指し、言語環境等の環境づくりを含めた取組の充実を図る。人権・同和教育学習や研修会等を計画的に進め、さらなる充実を図る。個別の人権課題や生徒の実態に応じた取組をさらに充実させる。
	個別的な人権課題や生徒の実態を踏まえた人権・同和教育の推進	生徒の実態把握に努め、各学年の課題を踏まえて、3年間を見通した人権・同和教育学習を実施する。 生徒理解のために教職員、事務職員、SC、SSW、訪問相談員との密な連携を図り、情報共有や生徒指導・支援を行う。 職員が自主的に研修するための人権・同和教育関係の図書や資料の充実を図る。	A A B		
事務部	教育環境整備の充実	教育施設の安全点検・改善について更なる徹底を図る。 各分掌と情報の共有化を図り、予算執行の教育効果を高める。	A B	A	・ 学校安全を心がけ防球ネット等改善すべきは予算要望を継続して行う。 ・ 令和3年度から始まる大規模改造・改修工事に向けて情報共有を徹底する。